園だより５月

子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。
エフェソの信徒への手紙６章１節

５月を迎える園庭は鮮やかな緑に囲まれ、子どもたちそれぞれの活き活きとした想いを包んでいます。今年度がスタートして早１ケ月、穏やかなひと月でありました。

子どもたちは今年度も個々のリズムで動き出し、年少組の子どもたちも幼稚園で流れている生活のリズムと呼応し合い、小さな社会での日常をゆっくりと過ごしていました。園庭で子どもたちの様子を眺めていると必ずと言ってよいほど、年少組の子どもたちが声をかけてきます。ほかの子が持っている砂場の用具を指さしながら、自分も欲しいことを小さな声で伝えます。一緒に砂場倉庫に行き、自分の使いたいものが見つかると私を振り返ることもなく走っていきました。滑り台の上から突然「早く来ないと閉まっちゃいますよー」と声をかけられ、それではと滑り台を上がってみると、待っていたその子は「こう滑るといいよ」と言わんばかりに先に滑り降り、私が滑り降りるまで見守ってくれました。また、すっと手を繋がれ、誰かしら？と顔をのぞくと満面の笑み。
そのまま園庭のお散歩が始まりました。お庭で見つけた石ころは子どもにとって宝物！大事そうに見せてくれます。そして「はい」と私の手の中に。「いいの？」と尋ねると「うん」と。暫くすると少し小さい宝物を持って「さっきの見せて」と戻ってきました。はい、と見せると黙って最初の宝物と少し小さい宝物を交換しました。素直な心持ちに笑みがこぼれます。
まだまだ語るエピソードは沢山の子どもたちとの出会いのひと月でした。どのときも交わす言葉はほんのわずかです。けれどもそこで交わるお互いの心持ちはとっても心地よいものでした。子どもたちのその時そのときの心持ちが至極当たり前に表現され、どの様な心持ちもありのままに受け止められるとき。子どもたちの心がどれほど豊かに耕されることかと思います。

若葉茂れる５月の日々。心地よく通り過ぎる風を感じながら、新緑の中、恵みに溢れる様々な子どもたちの毎日を保護者の皆様と共に見守って参りたいと願います。
よろしくお願いいたします。

園長　駿河　幸子